

福島第一原子力発電所現地確認報告書

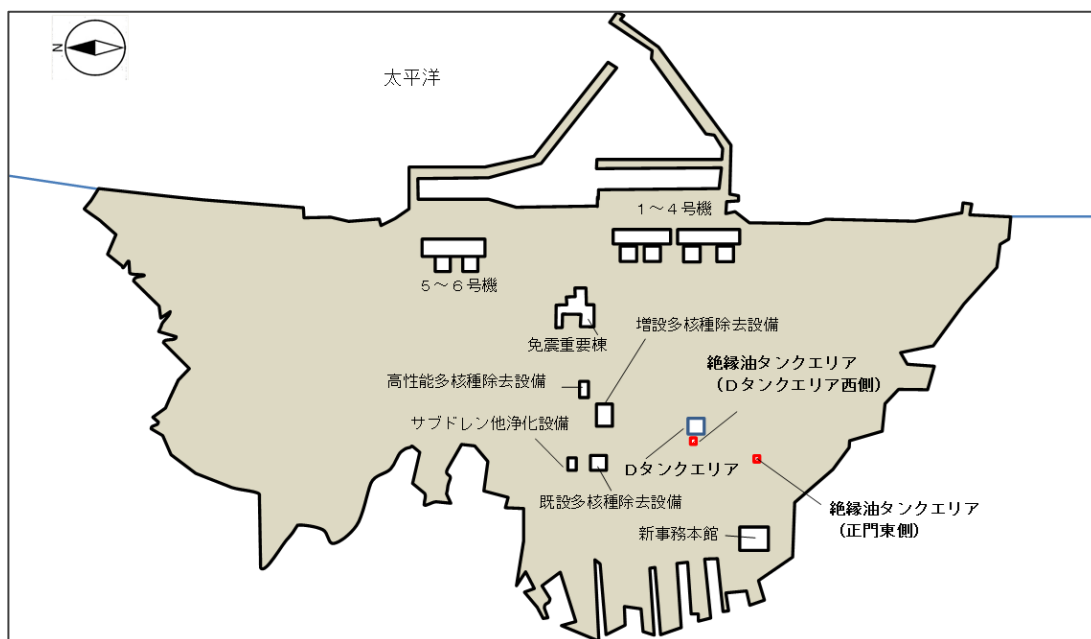
- 1 確認日
令和5年1月30日（月）
- 2 確認箇所
絶縁油タンクエリア（Dタンクエリア西側、正門東側）
- 3 確認項目
絶縁油タンクエリアにおける絶縁油タンク下部からの油の漏えい
- 4 確認結果の概要

令和5年1月27日午前9時38分、構内の絶縁油タンクエリア（Dタンクエリア西側）に設置されている電気絶縁油タンク油面計の元弁フランジ部からポリ塩化ビフェニル（PCB）^{※1}を含む絶縁油が堰内に漏えいしていることが発見されたことから、漏えいした油の回収状況等を確認するとともに、構内正門東側に設置されている同様の絶縁油タンクエリアの状況も確認した。

（図1）（前回確認：[令和5年1月27日](#)）

- ・絶縁油タンクエリア（Dタンクエリア西側）では、漏えいした油の回収は既に完了していた。なお、確認した範囲において堰外への油の漏えいは確認されなかった。（写真1）
- ・油が漏えいした油面計の元弁フランジ部は漏えいが発生したタンク及びその他のタンクについても保温材等で養生されていた。（写真2）
- ・同様の絶縁油タンクが設置されている絶縁油タンクエリア（正門東側）においては、油面計の元弁部周囲にビニール養生が行われていた。なお、確認した範囲においては油の漏えいは確認されなかった。（写真3）
- ・東京電力によると、油が漏えいした原因は、タンク内に溜まった結露水が油面計内に溜まり、凍結によって配管フランジパッキンが破損した影響と推察しているとのことであった。なお、漏えいした油の回収は1月28日に完了しており、今後、準備ができ次第、堰内の清掃を実施するとのことであった。

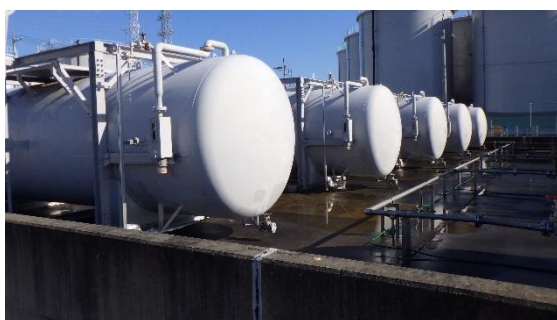
※1 ポリ塩化ビフェニル（PCB） 化学的に安定しており、絶縁性に優れている化合物であり、人体への毒性や環境への残留性が問題となり、1972年以降生産が中止されている。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



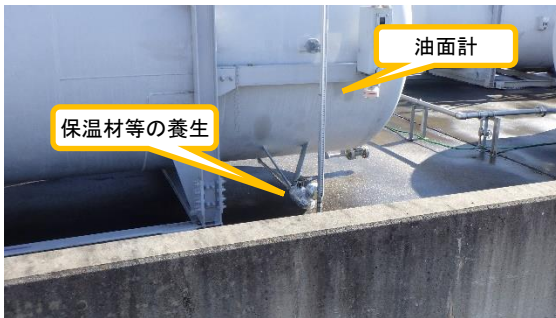
(写真1-1)
絶縁油タンクエリア (Dタンク
エリア西側) の概観
(北東側から撮影)



(写真1-2)
絶縁油タンクエリア (Dタンク
エリア西側) の堰内の状況
(西側から撮影)



(写真1-3)
絶縁油タンクエリア（Dタンク
エリア西側）の堰外の状況



(写真2)
油が漏洩したNo. 4絶縁油タンクの
油面計の元弁フランジ部の状況



(写真3-1)
絶縁油タンクエリア（正門東側）の
の概観
（北西側から撮影）



(写真3-2)
絶縁油タンクエリア（正門東側）に
設置されている絶縁油タンク油面計
の元弁部周囲の養生の状況

- 5 プラント関連パラメータ等確認
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。